

2015 年度学習院大学史学会総会

— 9:30 ~ 10:45 小講堂 (学習院創立百周年記念会館 3 階) —

第31回 学習院大学史学会大会

— 11:00 ~ 18:00 学習院創立百周年記念会館 —

June 2015 **6 / 13** ^[土]
総会 9:30 ~ 10:45
大会 11:00 ~ 18:00

▶ 第一部 11:00 ~ 12:00

【第1会議室】宝暦事件後の朝廷 —宝暦12年の蔵人頭任免を中心に—

林 大樹 (学習院大学大学院博士後期課程)

【第3会議室】15世紀後半フィレンツェにおける大使 ambasciatore に

求められた役割と振舞 —指令書と書簡からの考察—

信田 将臣 (学習院大学大学院博士前期課程修了)

▶ 第二部 13:00 ~ 14:00

【第1会議室】上博楚簡の楚国説話と『左伝』の成立について

海老根 量介 (学習院大学東洋文化研究所助教)

【第3会議室】イギリス人兵士の第一次世界大戦経験 —軍事郵便に見る戦場の人間関係—

渡辺 基郎 (学習院大学大学院博士後期課程)

▶ 第三部 14:10 ~ 15:10

【第1会議室】《アーカイブズの現場から》東京都公文書館の活動と所蔵史料

長谷川 怜 (東京都公文書館史料編さん係専門員)

▶ 講演 15:30 ~ 18:00 小講堂

パリの郊外に田園都市を建設する
—1920~50年代のシュレーヌ—

中野 隆生 (学習院大学教授)

江戸の贗酒

岩淵 令治 (学習院女子大学教授)

▶ 懇親会 18:00 ~ 20:00 第1 ~ 3 会議室

学習院大学史学会

(<http://www.cc.gakushuin.ac.jp/~hist-soc/>)

学習院大学文学会共催

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

学習院大学文学部史学科研究室内

お問合せ: shigakukaitaikai@yahoo.co.jp

林 大樹 宝暦事件後の朝廷 ―宝暦12年の蔵人頭任免を中心に―

宝暦事件によって大量の天皇「近臣」が処罰され、摂家主導の朝廷再編が進められた。そんななか、殿上を統括すべき存在である蔵人頭が重要儀式たる元日節会において「失錯」を犯す。その後任をめぐって、天皇や関白、候補者たちの思惑が交錯する。事件直後の揺れ動く朝廷を舞台に、当該期における朝廷運営の実態を再考する。

信田 将臣 15世紀後半フィレンツェにおける大使 ambasciatore に求められた役割と振舞

15 世紀後半のフィレンツェにおいて、大使 *ambasciatore* という役職が任地でいかなる役割を果たすように想定されていたのかを、彼に与えられた指令書のなかに見られる都市政府からの命令をもとに検証する。さらに実際に赴いた任地において、*ambasciatore* の動向が現地の政策決定にどれほどの影響を及ぼし得るものであったのかについても、指令書や書簡から考察する。

海老根 量介 上博楚簡の楚国説話と『左伝』の成立について

かつて小倉芳彦氏は、元々はひとまとまりの説話が『左伝』に組み込まれる際に分解され、年代ごとに振り分けられたことを想定された。近年陸続と公開されている上博楚簡には、楚を舞台とする説話が多く含まれているが、そのうちの一つ『申公臣靈王』は『左伝』と対照できる内容を持ち、かつ「ひとまとまりの説話」の状態を留めている。そこで本報告ではこの説話が『左伝』に組み込まれていく過程を復原し、あわせて『左伝』の性質についても論じてみたい。

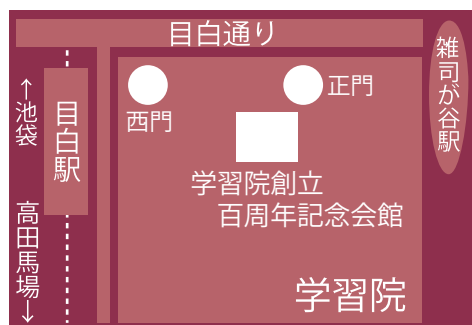
渡辺 基郎 イギリス人兵士の第一次世界大戦経験 ―軍事郵便に見る戦場の人間関係―

第一次世界大戦において、西部戦線に派遣されたイギリス人兵士は約 150 万名にのぼる。この大規模な外征軍は敵であるドイツ軍と対峙していただけでなく、地元フランス・ベルギー民間人の生活圏で行動していた。また自軍内部においても、階級や兵科等の差異が存在した。このような諸集団の間で、イギリス人兵士たちは如何なる戦争経験をしたのだろうか？ 彼らが記した手紙を用いた考察からは、戦時下における多様で流動的な人間関係が垣間見える。

長谷川 怜 《アーカイブズの現場から》東京都公文書館の活動と所蔵史料

東京都公文書館は、東京都の公文書のみならず、東京都の前身である東京府・東京市の公文書、東京都・府・市の発行した行政刊行物の他、江戸・東京に関する歴史資料・図書、地図等多様な史料を所蔵するアーカイブズである。本報告では、公文書館の所蔵史料を豊富な写真で紹介すると共に、明治期以来刊行が続けられる『東京市史稿』や、近代以降の東京の歴史をまとめた『都史資料集成』の編纂業務、保存・修復事業などを総合的に解説する。

講演



JR山手線「目白」駅下車、徒歩2分
東京メトロ副都心線「雑司が谷」駅下車、徒歩7分

中野 隆生 パリの郊外に田園都市を建設する—1920～50年代のシュレーヌ—

19世紀末、イギリスのエベネザー・ハワードが社会改革を目指し提唱した「田園都市」はヨーロッパ、アメリカ、日本など、世界の都市や住宅に影響を及ぼした。現実につくられた「田園都市」は各国の事情に左右されてそれぞれ固有の性格をおびることになったが、フランスの「田園都市」をめぐってはこれまで社会改革的側面が強調されてきた。そうした評価について、シュレーヌの事例をとりあげて計画と建設の推移を追い、再検討を試みることにしたい。

岩淵 令治 江戸の鷹酒

江戸の酒の多くは、先進地域である上方の「下り酒」であった。18 世紀後半には上方で江戸積酒造家の仲間「摂泉十二郷酒造仲間」が成立し、生産や販売の規制を行った。そして、上方の酒の銘柄はいわばブランドとして確立していった。しかし、これらの銘柄は公的に保護されることはなく、明治 17（1884）年の商標権制定まで、さまざまな形で贋酒が流通したのである。今回は、こうした贋酒の製造・流通の実態や、仲間による取締りをみていきたい。

第三部

学習院大学史学会